

農作物の生育状況と今後の見通し・農作業安全について(8月)

鳥取県農業気象協議会
(鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まで)
令和8年8月15日現在

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
作物	水稲	・県内全域の用水量が少ない地域で水不足の影響が見られたが、8月中旬のまとまった降雨により、渇水による急性的な症状は解消される見込み。 ・飽水管理が可能であった現地ほ場の生育は概ね順調で、用水量の少ない地域では排水路からのポンプアップ、灌水、節水栽培により渇水の影響を抑制しているが、用水路の末端や大区画ほ場の一部で渇水の影響があった可能性がある。 ・斑点米カメムシの発生が多く、イネカメムシの発生も散見される。また、常発地でのいもち病の発生やごま葉枯病、紋枯病の発生も散見される。 ・各品種とも出穂が平年並から2日程度早まっている状況だが、今後も高温が予想されており、出穂期以降の高温の影響で品質不良が懸念される。 【農芸試験場作況田】 ＜早稲(6/11移植)＞ 【ひとめぼれ】 出穂期は7/21(平年-3日)。葉齢および葉色は平年並。 【コシヒカリ】 出穂期は7/24(平年-2日)。葉齢は平年並で、葉色はやや濃い。 ＜普通稲(6/25移植)＞ 【コシヒカリ】 幼穂形成期は7/13(平年+1日)。葉齢は平年並で、茎数は多く、葉色は濃い。 【星空舞】 幼穂形成期は7/18(平年-1日)。葉齢は平年並で、茎数はやや多く、葉色はやや濃い。 【きぬむすめ】 幼穂期は7/24(平年-1日)。葉齢および茎数は平年並、葉色は濃い。	・用水路の水量が少なく、従来の入水・湛水が困難なほ場は、可能な限り排水路のポンプアップ等により、用水を有効に活用する他、灌水や節水栽培に取組み、開花時期等の優先順位の高いほ場から、足跡水を目安に配水するように努める。 ・遅いもちは発生後の防除が困難であるため穂ばらみ期及び穂揃い期の2回防除を徹底する。 ・紋枯病防除は、これから出穂期を迎えるほ場では穂ばらみ期の基幹防除を徹底し、穂ばらみ期に基幹防除を行っていないほ場では、出穂後であっても防除を行う。 ・カメムシ防除は穂揃い期～乳熟期に行うとともに、斑点米カメムシ類が要防除水準を越える場合には直ちに防除を行う。 ・早期に落水すると玄米の品質が低下することから、収穫5日前までは完全落水しないように間断かんがいを励行する。 ・ひとめぼれの収穫適期は、平年より早かった前年より約1日程度早くっており、コシヒカリは前年並～1日程度早い予想となっている。 ・近日の気象経過及び1か月予報を基に、本年は以下の出穂後積算気温を目安に適期収穫を励行する。 ひとめぼれ：910～1,110℃(青刈率 14～21%) コシヒカリ：890～1,140℃(青刈率 10～25%) 星空舞：標高300m未満 1,000～1,260℃(青刈率 0～10%) 標高300m以上 920～1,170℃(青刈率 0～12%) きぬむすめ：890～1,100℃(青刈率 6～29%)
	大豆	・6月播種のほ場では、出芽・苗立ちが順調であったが、梅雨明け以降、降雨がなく、開花期を迎えて渇水の影響を受けた。 ・7月播種のほ場では、一部干ばつによる出芽・苗立ち不良や初期生育の停滞も見られ、生育量がやや小さい。 ・8月中旬のまとまった降雨により、渇水による急性的な症状は解消される見込みだが、開花期間中の水分ストレスにより着実数の減少が懸念される。 ・梅雨明けが早かったため、初期生育が順調だった早播ほ場では中耕地土作業が順調に進んだが、干ばつ等の水分ストレスによって生育量が小さいほ場で、雑草が繁茂し始めている。 ・梅雨明け以降、異常高温と無降雨が続続し、著しい干ばつによって、ハダニが発生するほ場や、日中に葉が裏返る症状のほ場が見られる。また、著しい乾燥の場合は枯死する事例もあった。 ・一部ほ場でハスモンヨトウによる白変葉やウワバ類の食害が見られるが、現時点で大きな被害には至っていない。	・大雨による湛水も落葉を助長する。あらかじめ排水溝の手直しを行い、速やかな排水に努める。 ・紫斑病、カメムシ等の防除を適期に行う。また、カメムシ類、他の害虫等の発生が多い場合には追加防除を行う。 ・着実後、台風等による風雨の影響で物理的な損傷があった場合は、登熟過程において腐敗粒が増加することがあるため、殺菌剤による追加防除を検討する。
果樹	ナシ	・ハウス二十世紀梨の出荷は盆前でほぼ終了し、果実肥大、糖度ともに良好だった。 ・8月12日の果実生育調査結果は次のとおり。 「二十世紀」：3園の横径平均が83.1mmであり、前年比107% (7日早い)・平年比103% (3日早い)「新甘泉」：3園の横径平均が95.6mmであり、前年比110% (11日早い)・平年比104% (6日早い) ・6月1日に病害虫発生予察注意報「果樹カメムシ類」が発表されたが、今のところ大発生していない。 ・梅雨明け後、ハダニの好条件である高温乾燥が続いたことから、多発して葉焼けをおこした園がある。	・高温傾向であり、みづ症、過熟等、障害果が発生する可能性が高いため、果実や樹の様子を観察し、収穫時期が遅れないよう注意する。 ・厳しい高温干ばつが続く場合は、かん水を適宜行う。特に、根域が浅い幼木のかん水をこまめに行う。 ・台風が襲来する場合は、果樹園の補強や結果枝の棚絡への結び直し等の事前対策を実施する。 ・カメムシ類の飛来、ハダニ類の発生状況を観察して防除する。なお、収穫期に入るので、薬剤散布をする際は農薬の収穫前日数に留意して行う。 ・検査標準査定会「新甘泉」は8月17日(月)、「二十世紀」は8月21日(金)に開催予定。
	カキ	・8月12日の果実生育調査結果は次のとおり。 「輝太郎」：3園の長径平均が66.7mmであり、前年比100% (前年並)・平年比100% (平年並)「西条」：3園の長径平均が47.0mmであり、前年比100% (前年並)・平年比99% (1日遅い)「富寿」：3園の長径平均が65.9mmであり、前年比103% (5日早い)・平年比102% (3日早い) ・6月1日に病害虫発生予察注意報「果樹カメムシ類」が発表されたが、今のところ大発生していない。 ・梅雨明け以降に高温が続く、直射日光が当たった果実が日焼けしている。	・高温干ばつが続く場合には、かん水を適宜行う。特に、根域が浅い幼木のかん水をこまめに行う。 ・カメムシの園内への飛来状況を確認し、防除する。炭疽病の発生園では防除を行うとともに罹病した果実、枝等は園外へ持ち出して処分する。 ・度刈りを行って園内の通気を良くし、病気の発生や果実の汚れを抑制する。 ・最高気温が30℃を下回る頃からマルチを敷設して着色向上を図る。 ・台風が襲来する場合には突き上げ柱の設置や棚絡への結び直し等の事前対策を実施する。「輝太郎」は摘葉を行い葉スレによる汚損果を軽減する。
	ブドウ	・中部砂丘地の無加温ハウス「巨峰」「ピオーネ」の出荷は、盆前で概ね終了した。梅雨明けまでは夜温が下がったこと等もあり、例年よりも着色は良かった。 ・果実生育調査結果は次のとおり。 7月21日時点結果：横径が27.3mmであり、前年比103%、平年比93% 8月10日「シャインマスカット」：横径が24.5mmであり、前年比101%	・これから収穫となる「シャインマスカット」では、日焼け・縮果症の発生を抑えるため、ハウス内の温度を下げるよう努める。 ・検査標準査定会「シャインマスカット」は8月24日(月)に開催予定。
野菜	白ねぎ	【春ねぎ】 ・アザミウマ・定植～生育中。 ・7月以降、乾燥等による発芽不良の発生は平年並みかやや少ない。 ・定植以降にかん水を行うほ場が多く、乾燥による苗の消失等は平年より少ない。 【夏ねぎ】 ・収穫出荷中。梅雨明け以降に豪雨がなかったため、生育は平年より順調。 ・梅雨明け以降は高温乾燥が続いていることから、出荷物は太さの割に軽いものが多く、株の分けつが目立つほ場もある。 ・高温乾燥の影響で、白絹病、軟腐病の発生が見られる。また、アザミウマの被害が多く、等階級の低下につながっている。 【秋冬ねぎ】 ・梅雨明け以降高温乾燥の影響で、外葉や葉先枯れの発生ほ場が多く、生育は停滞している。また、計画とおりの土寄せが進んでいないほ場も多い。 ・一部ほ場では雑草の繁茂しているほ場が見られる。 ・病害は萎ちょう病、白絹病、軟腐病の発生がみられる。虫害はアザミウマの被害が多く、ハモグリバエやシロイチモジトウの発生も見られる。	【共通】 ・アザミウマ、ハモグリバエ、シロイチモジトウ、白絹病、軟腐病の防除を徹底する。 ・台風、大雨に備えて明渠等の排水路の点検と排水対策を徹底する。 【春ねぎ】 ・定植前の黒腐菌核病防除を徹底する。 ・干ばつが続く状況であれば、定植後かん水を確実に行う。 【夏ねぎ】 ・生育停滞や肥効切れによる糠の緩みが多く、降雨により細菌性の病害が増える可能性が高いため、降雨の前後に防除を行う。 【秋冬ねぎ・秋冬ねぎ】 ・高温、少雨で生育停滞したねぎは亜リン酸資材の散布による草勢回復をはかる。 ・長期干ばつ後の大雨により軟腐病が多発するため、降雨前の軟腐病防除の徹底を呼び掛ける。
	ブロッコリー	・播種と定植作業が進行している。育苗は高温と過湿により発芽率の低いところがある。 ・育苗中の病害虫の発生は黒すす病の発生は見られず、ハスモンヨトウ、ネキリムシ、キスジノミハムシは平年並みの発生となっている。 ・8月上旬からかん水の可能な園地で定植が始まった。8月9日には降雨があり、定植準備、定植作業は順調に進んでいる。	・高温期の育苗中は、水管理を適切に行う。 ・定植作業は順調に進む見込み。 ・黒すす病や、ハイマダラノミガ、ヨトウムシ等に対しては、早期の防除を呼びかける。 ・台風後は殺菌剤による病害防除と生育の回復のために応じて液肥の散布を行う。
	ながいも	・長芋・ねばりっこ共に高温干ばつの影響により、地上部はやや小振り、葉は小さい。また、葉焼けも発生している。 ・炭疽病の発生は少なく、全体として病害虫の被害は軽微。 ・7/30試験掘り結果 【長芋】 平年、芋長ともに平年より大きく下回っている。全体的に出芽が遅いほ場が見られる。 重量242.6g(平年比74.8%、前年比58.1%)、芋長36.2cm(平年比85.5%、前年比75.4%) 【ねばりっこ】 平年よりもやや細いが芋重は大きい。芋長は短い。 重量339.0g(平年比106%、前年比99.3%)、芋長43.8cm(平年比91.7%、前年比96.9%)	・高温干ばつの影響により芋肥大の停滞が予測されるため、健全な葉の維持に努め、病害虫の防除を徹底することを呼び掛ける。 ・コガ類やダニ類の多発生が懸念されるため防除を徹底する。 ・干ばつにより植物体が弱っていると考えられるため、降雨後の炭疽病等の発生に十分注意し予防防除に努める。
	トマト(夏秋)	【夏秋】 ・3～5段目の収穫中で、8～10段目が開花中。 ・6月は日照不足の影響で例年と比較して止まり、連続果房、空洞果の発生が多い。 ・7月の出荷量は昨年比約79.1%。特に7月下旬の出荷量は昨年比約69%と低く推移している。 ・病害は一部で青枯病、葉かび病の発生、害虫はトマトキバガ、トマトサビダニ、コナジラミ類の発生が確認されている。	・8月中旬にトマトキバガの発生に警戒するよう情報提供する予定。 ・一部園地でかん水不足による生理障害が発生しているため、かん水方法、かん水量について指導する。 ・今後台風や豪雨に備え、排水対策の指導と降雨による病害の発生について注意喚起する。
	ミニトマト	・8月以降、半促成作から抑制作の出荷へと切り替わっている。 ・生育は例年と同等で、8月下旬以降収穫ピークが始まる見込み。 ・高温の影響により、黄変果や縦長果、不着果などの症状が散見されている。 ・高温乾燥の影響でトマトサビダニやコナジラミ、すすかび等の発生も見られるが、大きな問題にはなっていない。 【参考】7/30までの出荷実績 数量:25,733kg(前年比91%)販売金額:22,869,577円(109%) 平均単価:889円/kg(120%)	・各種病害虫(トマトサビダニ、コナジラミ、すすかび)の防除啓発。 ・着果負担の多いタイミングなので、かん水での追肥を促し、草勢の維持に努める。
	アスパラガス	・夏芽出荷中。 ・高温の影響により、全体的に収量は少なく、かん水量の少ないほ場では特に少ない。 ・一部ほ場で茎枯病の発生が見られる。	・暑熱対策の情報を提供し、ハウスの温度を下げるよう助言する。 ・適切なかん水管理と病害虫防除を呼びかける。

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
花き	シンテツポウユリ	【盆作型】 ・概ね収穫は終了。7月下旬から収穫が始まり、東部地区の一部では冷蔵貯蔵による出荷調整を行って盆出荷を行った。 【抑制ハウス作型】＜中部地区のみ＞ ・品種は「F1高花EXⅡ」が中心。 ・早期抽台がわずかに発生したが、概ね順調な生育。 ・一部圃場で葉枯れ病の発生がみられる。	【抑制ハウス作型】 ・晴天が続く場合は寒冷紗を2重掛けを継続し、ハウス内の風通しが悪くならないようハウスサイドや入り口を開放する。 ・7月下旬までに発生した細い早期抽台株は摘心を行い、脇芽の生育を促す。 ・防除の徹底と枯葉の除去を行う。
	ストック	＜中部地区＞ ・スタンダードは7月25日、スプレー系は8月1日から播種開始。無鑑別品種「アリーアローホワイトⅡ」は8月25日から播種開始となる。順次播種が行われている。 ・順調に発芽しており、八重鑑別も順次行われている。 ・ハイマダラノメイガ、キスジノミハムシなど害虫の発生が一部でみられる。 ＜西部地区＞ ・中山間地では、例年より1週間遅い7月22日から播種開始され、本葉が出てきているが、高温の影響で発芽が悪く、追い播きが行われた。 ・大山地区では「ホワイトアイアン」「ピンクアイアン」が7月25日から播種された。無鑑別品種「アリーアローホワイトⅡ」は一番早いほ場で8月9日に播種され、今後も順次播種が行われる。	＜共通＞ ・今後も高温が続くため、発芽まではハウス内の温度が上がりすぎないようにハウスサイドや入り口を解放するなど温度管理に留意し、水分管理にも十分注意する。 ・キスジノミハムシ、ハイマダラノメイガ等害虫の発生がみられるため、発芽したら速やかに粒剤を散布するなど防除を徹底する。
	りんどう	・全体的には平年より1週間程度出荷が早いですが、一部のほ場では逆に出荷が遅くなっているところも見られる。 ・褐斑病の発生が一部で見られる。	・8月末で出荷が終了する見込み。 ・出荷が終了したほ場においても防除を継続するよう呼びかける。
	アスター	・6/19から播種が開始、8月上旬で概ね終了。 ・7月上旬播種までのほ場は発芽、生育ともに順調(草丈20cm程度)だが、梅雨明け以降に播種の圃場は、高温、コオロギ被害の影響もあり発芽が著しく悪い圃場も多い。	・乾燥しないように適宜灌水する。 ・ハウス内の熱がこもらないようにハウスサイドを開放する。 ・コオロギやアワダチソウグンバイの発生も見られたため防除の徹底
	飼料 トウモロコシ	・中部地区のコントラでは7/29頃から収穫作業が開始され県内全域で収穫が始まっている。 ・子実は充実しており、生育が良好なほ場が多いが、台風や少雨による枯れあがりを考慮し、収穫適期より少し早めに刈取りが開始されている地域がある。 ・一部ほ場では8/4頃から二期作の播種が始まっている。	・引き続き8月～9月にかけて収穫が行われる予定。

【農作業安全について】
・秋の農作業安全運動期間:9月1日～10月31日 標語「忘れていませんか？メット・ベルトの基本対策！転倒から命を守る確かな一歩」